

元町中学校の取組

1 研究のねらい

令和元年度全国学力・学習状況調査「生徒質問紙における、生活面の調査結果」において、本校生徒の実態を分析したところ、「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。」「日本や自分の地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。」という質問に対し、本校生徒の肯定的な回答は全国平均に比して低いという結果が示された。

また、授業の中で「外国人と話してみたいと思うか。」という問いかけをしたところ、「話してみたい。」と答えた生徒もいたが、言葉の障壁や意思疎通の難しさを理由に挙げて「話してみたくない。」と回答した生徒も相当数に上った。

今回の取組では、そうした実態を踏まえた上で日本に暮らす外国人とコミュニケーションを図り、互いの考えの共通点や相違点を確認し、相手の考えや気持ちに近づいたり寄り添ったりすることで他者理解につなげ、道徳性を養い、よりよい共生の仕方や今後の日本の在り方について実践的な考えを深めることをねらいとした。

- ・実際に外国人とコミュニケーションを図り、互いの考えに違いがあることを認識する。
- ・日本人と外国人の考え方の違いを理解することで、他国を尊重し、国際的な視野をもつ。

2 取組内容

課 題：日本が外国人にも住みやすい社会にするためにはどのようなことを実践していくべきだろうか。

(1) 外国人の招致

日本で暮らす外国人の方に実際に子どもたちと直接コミュニケーションを取っていただきながら授業を行っていく計画であるため、協力していただける外国人の方々をお招きする必要があり、そのためにいくつか連絡を取った機関がある。

① 札幌市国際交流員

札幌市では、アメリカ（2名）・中国・ドイツ・フランス・韓国・ロシアの7名の国際交流員（CIR）が勤務しており、市民の異文化理解のための交流活動等の業務を通して札幌市の国際化を推進している。

学校における教育活動では、主に総合的な学習の時間における支援として活用されることが多い。2コマを上限に1回につき3名まで派遣され、事前の予約が必要。札幌国際プラザ多文化交流部推進課に申込を行う。

② 北海道大学学務部国際交流課

道内各大学とも留学生が在籍しているが、北海道大学では1,500名以上の留学生を多種多様の国・地域から受け入れている。



③ 中華人民共和国駐札幌総領事館

各国領事館も人材派遣には協力的であるが、中でも今回大変お世話になったのが中国総領事館である。留学生については、留学生自身の講義時間と重なるため授業協力は難しい状況であったが、比較的時間に融通の利く大学院生を紹介していただき、今回の活動が実現した。この招致に関しては、本校学びのサポーターの仲介が大きく、授業立案の段階から当日の活動まで関わっていただいた。

他にもALTの活用が考えられるが、今回の授業は、外国人同士の話し合いと、生徒と外国人とのコミュニケーションという、二つの活動があるため、母国語と日本語を理解できる人材として、中国人北大大学院生を主に派遣していただいた。

(2) 授業展開の視点

① 自ら考えこれからの生活に生かす

ICT機器を活用して課題や資料に注目させながら授業を進め、ワークシートへの記入作業も最小限にとどめ、考えたり自分の心に問いかけたりする時間を極力多く取るよう配慮した。外国人を招き実際の話聞くことで驚きや発見があり、生徒自身の気付きや理解の深まりにつながった。

② 対話を生かす

今回の授業は自然な雰囲気の中で対話が展開していくことを重要視し、5人ほどの小グループで「話したい。考えたい。」という姿勢を維持しながら、外国人にも自由に生徒の対話に参加してもらいコミュニケーションを深めた。「外国人と交流できていい経験になった。」との感想も聞かれ、外国人と積極的に関わっていこうという姿勢が見られた。



3 成果と課題

(1) 成果

授業の最後に、外国人の方々から生徒の取組について感想が話された。その中で、生徒からの「外国語を学んで会話できるようになりたい。」「一緒に合唱したい。」等の発言について、意欲的で前向きな態度であり、よく考えて活動していたとの評価があった。また、「外国人差別をなくす」という意見に対しては強い共感が寄せられた。文化や生活習慣の違いを超え、他人の気持ちを考え寄り添うという他者理解の態度が見られたことは道徳性の涵養に成果があったと考える。

(2) 課題

今回は「外国語を学んで会話できるようになりたい。」との前向きな意見があった一方で、「外国語を学ぶこと」や「外国語を学んで交流すること」にはついては、外国の方から「もっと音楽や漫画等の興味あることから外国語を学んだ方がよいのではないか。」という意見もいただいた。小学校・中学校・高等学校においても主体的に外国語を用いるためのモチベーションの維持・向上について、このような視点はとても大切だと考える。